

碧南ロータリークラブ週報

第2625回例会 平成25年1月16日(水)

碧南商工会議所ホール

●会長 黒田 昌司

2012-2013 年度 国際ロータリーのテーマ

●幹事 木村 徳雄

●会場監督(SAA) 新美 雅浩

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場

〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100 ホームページ:http://www.hekinan-rc.jp

E-mail:info@hekinan-rc.jp

■会報委員 菅原優・鈴木泰博・服部弘史・大竹密貴



●斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

●本日のメニュー

和風弁当 大正館

●本日のお客様

(財)全国強制抑留者協会 理事、(財)全国強制抑留者協会愛知県支部、 シベリア抑留者愛知友の会 会長 河村廣康様

会 長 挨 拶

月曜日には関東で大雪が、今週末には大寒気が来ているという 事で、皆様に注意して頂きたい事を述べたいと思います。 1 月あ たまに去年の交通事故の死亡者数の発表がございました。まだ推 定ではございますが、4,411名の尊い命が交通事故にて失われ ました。これは家の外の事故でございます。家の中の事故も大体 の数字が出ておりますので、紹介をしたいと思います。



黒田昌司会長

約14,000人の方が家の中で死亡しております。これは入浴中の事故でございまして、心臓疾患だけではなく、溺死もございます。約10,000人は溺死と言われております。寒いと熱い風呂に入りたくなりますが、熱い風呂に入りますと血圧が急上昇してその後、急降下します。その際に意識障害を起こし、風呂に沈んでしまうそうです。意識障害を起こしやすい温度が、42度から43度ぐらいだそうです。もう少し温度を下げて、熱い風呂は少し我慢して頂けたらと思います。

お風呂後に汗をかいてそれも意識障害のもとになりますので、風呂の前には水を飲む事が必要ではないかと思います。風呂に入る際には十分に気をつけて頂きたいと思います。

幹 事 報 告

- 例会変更はございません。
- ・春の家族会についてお題が変わりましたので、お願い致します。



木村徳雄幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励委員会>

総会員数 66 名 (内出席免除者 10 名の内出席者 9 名)出席者 56 名	
出席対象者 56/64名	出 席 率 87.50%
欠席者 10 名(病欠者 1 名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

小林記念病院 小林武彦様 小林清の御花料をRCに寄附させて頂きます。父が生前に は大変皆様にお世話になりました。

大塚 敦統君 本日の講師 河村廣康様をご紹介させて頂きます。よろしくお願い致します。

木村 徳雄君 先日、消防出初式ではロータリー会員の皆さん、特に角谷信二さん、杉浦栄

次さん、ご苦労様でした。

長田 銑司君 いいことがありました。

山中 寛紀君 先般、第1例会の折には、還暦祝いの立派な花を頂き有難うございました。

ほんの少し良いことが有りました。

角谷 信二君 7 1月13日(日)平成25年碧南市消防出初式が無事に終わりました。

杉浦 栄次君 本年1年の無火災、無災害を心から願うばかりです。

卓話

「シベリア強制抑留生活の労苦」

- (財) 全国強制抑留者協会理事、
- (財) 全国強制抑留者協会愛知県支部、
- シベリア抑留者愛知友の会 会長河村廣康様





河村廣康様

春日井から参りました。1年9ヶ月ほどシベリアで抑留されておりました。体験談としてお話させて頂きたいと思います。

シベリアで亡くなった方は一説には30万人以上とも言われております。亡くなった方の7

割ぐらいが、終戦の年の冬に亡くなりました。気候に慣れておらず、食料も極度に少なかったのが、原因です。本日は、気候、食料、労働、環境、そして精神的な問題に分けてお話させて頂きます。

1月に北海道でマイナス30度を記録しましたが、屋外へ出ますと5分ぐらいで鼻の先が凍傷します。日本人は寒いと鼻をこすりますが、こすると皮がめくれてしまうので、血行を良くするために鼻を叩いておりました。

シベリア鉄道の他に、スターリンがもう一本鉄道を引こうという事で、シベリア第二鉄道を 作ったのですが、日本人が大勢かりだされました。工事は非常に大変で、枕木1本につき日本 人が1人亡くなったと言われております。

平均気温が、私がいたタイセットではマイナス30度ぐらいでした。マイナス60度も体験した事がございます。寒さというより痛さがあります。そして吹雪になりますと、体感温度がマイナス100度ぐらいになってしまいます。瞬きをすると、上と下のまつ毛がくっついてしまい、開けなくなるぐらいでした。そんな中で私どもは働かされておりました。慣れというのは怖いもので、ソ連人は素手で10分ぐらい作業しておりました。

季節がありますが、春から秋までが長くても5ヶ月ぐらいで終わってしまいます。夏も大量の蚊やブヨが群がってきますので、肌が出ない服装で暑い思いをしました。

食事に関しても、死亡した一番大きな原因が食事だと思っております。主食はプロパンと言いまして、食パン1枚ぐらいです。口に入れますと、まずくて、塩辛くて、酸っぱい物で、とても食べられる物ではないです。副食はスープで、岩塩で味付けしてあり、キャベツの切れ端が1、2枚浮いているだけでした。一度に食べてもお腹がふくれないので、朝昼同時に食べました。それでもふくれません。

私は伐採をしておりまして、ノルマがございました。二人一組で30mぐらいある杉を倒し、 枝を払って小分けにし、一定の場所に納める事でした。しかし、このノルマは大柄なロシア人 向けのノルマですので、私たち日本人はとても達成できるものではありませんでした。伐採を やるようになってから、一度も達成した事がございません。それぐらいキツいノルマでした。

1ヶ月に一度身体検査がありましたが、先生にお尻の肉をつままれ、1級、2級などと等級をつけられました。等級によって働く人間と休養する人間とを分けていました。最初の1年は休養する人間はほとんど栄養失調で亡くなっていました。1年半過ぎたごろから、ソ連も栄養失調対策で食料を多くするようになりました。

環境ですが、収容所は真中に通路があり、両側に荒削りの板で仕切ってありました。肩をす ぼめなければ寝られないぐらいの範囲しかございませんでした。室内もマイナス4、5度ぐら いでしたので、防寒着を着たまま寝ておりました。風呂はと言いますと、風呂おけ1杯のみで、 石けんも黒い物でキレイになるはずがありませんでした。

着替えは冬の間はありません。1着で7ヶ月間過ごすわけです。1週間も着ていますとシラミがわくので、一番辛かったです。冬は、南京虫とシラミでとてもかゆい思いをしました。

精神的な圧迫といいますか、私たちはシベリアに来る時に部隊長から、3ヶ月鉄道の修理を して、その後日本へ帰してやると言われました。最初から騙されていたのです。そして2ヶ月 毎ぐらいに、東京へ帰してやる、東京へ帰してやる、と何度も聞かされました。何度も東京へ 帰る夢を見て、騙され続けました。ある戦友はノイローゼになり、自殺してしまいました。

思想教育ですが、私は農家ですからいいのですが、都会の人は帰ってきてから就職しなければなりません。しかし、共産主義で染まっていますので、なかなか会社に入れてもらえませんでした。

最近、遺骨収集が可能になりましたが、今までに2万660体の遺体しか見つかっておりません。その中で身元が分かったのが800体ぐらいです。まだシベリアには多くの方が埋まったままです。現在のお墓の場所も、周りが雑木林などで分からない場所にあります。そのような場所に私たちの戦友は眠っております。そういう人達のおかげで、現在の平和がある事を忘れないようにして頂きたいと思います。

よく展示会をさせて頂きますが、抑留の実態を知って頂き、戦争は絶対にあってはならないものだという事を知って頂きたいです。平和は本当に尊く、ありがたいものである事を知って頂きたい、という思いから展示会等をやらせて頂いております。高浜市、常滑市、清洲市の市で今年は展示会をさせて頂きます。一人でも多くの方に来て頂いて、平和の尊さを感じ取って頂きたいです。

最後になりますが、名古屋の方が、シベリア抑留者の思いを詩に託して届けてくれました。 「シベリアで 妻子呼びつつ 息とる共に 最後の水を飲ます悲しさ 明日は我が身と思う寂 しさ」。これがシベリアの抑留者の心境でございます。ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

平成25年1月30日(水) 卓話「病気と元気」 中央漢方薬局 薬剤師 苅谷賢治氏